

『雅俗』文献目録

平成6(1994)年第1巻～令和2(2020)年第19巻(雅俗の会発行)

No.	論文タイトル	著者	巻号	発行年
1	連歌と俳諧における雅俗の問題：守武・貞徳・宗因・芭蕉をめぐって	島津 忠夫	1	1994(H6)年
2	三国の遊女・哥川の周辺	渡辺 憲司		
3	蓬萊尚賢と雅俗	鈴木 淳		
4	後期戯作における雅俗	佐藤 悟		
5	吉原考証の雅と俗	キャンベル ロバート		
6	月の芭蕉	井上 敏幸		
7	狂歌咄の人物：雄長老雑記	花田 富二夫		
8	歌論と添削：冷泉為村の実作指導理念	久保田 啓一		
9	学者の古典 歌人の古典	白石 良夫		
10	『瓊浦遊草』の世界：大潮元皓の長崎滞在	若木 太一		
11	妙は唯その人に存す：妙幢浄慧ノート	西田 耕三		
12	雑俳書の出版と行司組	安永 美恵		
13	黄表紙『新義経細見蝦夷』：翻刻と解題	園田 豊		
14	松浦史料博物館所蔵近世演劇関係書目録	赤間 亮, 岩井 真実, 鈴木 英一, 根岸 正海, 東 晴美		
15	雅語俗録 壱	中野 三敏	2	1995(H7)年
16	名家書簡披展：連載その一	雅俗の会		
17	先哲叢談聚議：連載その一	雅俗の会		
18	評判記の享保	松崎 仁		
19	文人たちの富士山	高橋 昌彦		
20	福岡藩臨時御伽衆宮川忍斎	久保田 啓一		
21	錦文流と羅山編『徒然草野槌』	神谷 勝広		
22	舌耕徒然草：『諸抄大成』以後諸注釈の展開	川平 敏文		
23	百年の交誼	上野 洋三		
24	続 月の芭蕉	井上 敏幸		
25	改稿 沾徳年譜考証：元禄末年まで	白石 悌三		
26	潭北の教訓本：『野総茗話』をめぐって	飯倉 洋一		
27	近世古代語と契沖著作	白石 良夫		
28	善光寺物語（紹介）	西田 耕三		
29	雅語俗録 貳	中野 三敏	3	1996(H8)年
30	名家書簡披展（連載その二）	雅俗の会		
31	先哲叢談聚議：連載その二	雅俗の会		
32	筑紫の梅 都の松：中野三敏氏蔵『五すい囀』の紹介	白石 悌三		
33	『高良山十景詩歌』の反響	井上 敏幸		
34	向井元升事略：入洛前後	若木 太一		
35	江戸の長瀬真幸と青柳種信	白石 良夫		
36	幕末期柳河藩の歌合	久保田 啓一		
37	武家共通語と謡曲	岡島 昭浩		
38	南橋墓誌	宮崎 修多		
39	霊空光謙の囀	西田 耕三		
40	清涼井蘇来の著作をめぐって	樫澤 葉子		
41	「血かたびら」の文体	飯倉 洋一		
42	原念斎と「先哲叢談」稿本	高橋 昌彦		
43	佐藤信淵の九州紀行	板坂 耀子		
44	「俳諧とんと」翻刻と解題：不角に対する論難書	平島 順子	4	1997(H9)年
45	黄表紙『万象亭戯作濫腸』浅読	園田 豊		
46	雅語俗録：参	中野 三敏		
47	名家書簡披展：その三	雅俗の会		
48	先哲叢談聚議	雅俗の会		
49	一代男 巻頭の挿画について	上野 洋三		
50	陽のあたる戯作：蔦屋重三郎の戯作出版をめぐって	鈴木 俊幸		
51	天明狂歌壇の連について：唐衣橘洲一派を中心に	石川 了		
52	『浮牡丹全伝』への一視点	大高 洋司		
53	『竹馬狂吟集』序文私注	井上 敏幸		
54	大名俳諧：細川重賢の場合	西田 耕三		
55	安永天明期江戸歌壇の一側面：「角田川扇合」を手掛かりとして	盛田 帝子		
56	依田学海逸文	白石 良夫		
57	落合東郭：依田学海との交友	高橋 昌彦		
58	島原松平文庫蔵『仮枕』翻刻	花田 富二夫		
59	雅語俗録 肆	中野 三敏	5	1998(H10)年
60	名家書簡披展(4)	雅俗の会		
61	先哲叢談聚議(4)	雅俗の会		
62	『竹斎』と教訓	福田 安典		
63	『本朝二十不孝』の教訓の意味：作者の姿勢と読者の問題	谷脇 理史		

No.	論文タイトル	著者	巻号	発行年
64	浮世草子と教訓：其磧の気質物・町人物と『当世誰が身の上』	倉員 正江	5	1998(H10)年
65	『子孫大黒柱』の教訓的手法：巻五-五を中心に	藤原 英城		
66	近世仏教説話と教訓：大枅小枅の罪科	堤 邦彦		
67	草双紙にみる桃太郎の教訓化	船戸 美智子		
68	西洞院時慶庭訓『夢後記』の文学	大谷 俊太		
69	成島信遍の対俳壇教訓	久保田 啓一		
70	儒者と女訓書	福島 理子		
71	歌舞伎と教訓	古井戸 秀夫		
72	西鶴と芭蕉：『名残の友』における桃青評	井上 敏幸		
73	『日本行脚文集』の中の長崎文壇	若木 太一		
74	民は人なり：妙幢と藤樹	西田 耕三		
75	『徒然草大全』の到達点	川平 敏文		
76	江戸和学史への一視点：荷田御風と賀茂季鷹	盛田 帝子		
77	豊後岡藩の歌人：『春霞集』を通して	高橋 昌彦		
78	語りと命禄：富岡本「天津処女」論	飯倉 洋一	6	1999(H11)年
79	雅語俗録：伍	中野 三敏		
80	名家書簡披展：その五	雅俗の会		
81	先哲叢談聚議：その五	雅俗の会		
82	追悼中村幸彦先生			
83	蛙はなぜ飛びこんだか：「古池」句の成立と解釈	深沢 眞二		
84	五人女の一の筆：「中段に見る暦屋物語」論	木越 治		
85	支考虚実論の試み：豊かな俳諧史をめざして	中森 康之		
86	増穂残口の城の説：その文学史との接点	田中 則雄		
87	梟舟子閑寿は青木鷺水に非ず：和学者覚書	川平 敏文		
88	『帰去来辞』の転移	西田 耕三		
89	『詩範』覚書	宮崎 修多		
90	"思いやる(想像ル)心"の詩歌：小沢蘆庵の場合	田中 道雄		
91	「嫁切り」劇の成立：『靈験曾我籬』を中心として	中村 恵		
92	加藤千蔭の画歴	鈴木 淳	7	2000(H12)年
93	水戸祇園寺蔵『野節文章』大概	大庭 卓也		
94	[翻刻]是行『つくし湯』『是行八月十五夜詠草』	若木 太一		
95	『守武千句』第一百韻注解	今 栄蔵		
96	雅語俗録 陸	中野 三敏		
97	名家書簡披展：連載その六	雅俗の会		
98	先哲叢談聚議：連載その六	雅俗の会		
99	追悼 白石梯三先生			
100	『贈三位物語(つくし舟)』論：未完の翻案雅文体小説はどう書かれようとしたか	揖斐 高		
101	篠崎東海とその周辺	井上 泰至		
102	蕪村・遠近論	藤田 真一		
103	〈実景論〉をめぐる：香川景樹歌論の位相	神作 研一		
104	幕末中国物読本『蒙賊記』の成立と作者	服部 仁		
105	芭蕉、転化の工夫	西田 耕三		
106	「栖去之弁」私注：「物のちらめくや風雅の魔心なるべし」の意味	井上 敏幸		
107	近世後期堂上歌人の習練と挫折：日野資矩の場合	盛田 帝子		
108	一九の黄表紙『通人寝言(つうじんのねごと)？『夏木立恋重荷(なつこだちこいのおもに)』序説：焼き直しの趣向などを巡って	康 志賢	8	2001(H13)年
109	赤井東海伝：『聞くまゝの記』を通して	高橋 昌彦		
110	雨森芳洲小考：唐話の師國思靖	若木 太一		
111	雅語俗録？	中野 三敏		
112	名家書簡披展(連載 その七)	雅俗の会		
113	先哲叢談聚議：堀杏庵・石川麟洲(連載 その七)	雅俗の会		
114	大江文坡の談義の方法：『成仙玉一口玄談』を中心に	湯浅 佳子		
115	徒然草をめぐる儒仏論争：江戸前期文芸思潮一斑	川平 敏文		
116	小倉藩国学者と桂園派：小倉藩士西田直養を中心に	亀井 森		
117	『仮名本朝孝子伝』の一側面	勝又 基		
118	答書筈記：拙著『十八世紀の江戸文芸』諸家評に	中野 三敏		
119	芭蕉の常識	西田 耕三		
120	向井元升著述考：東西文化の接触	若木 太一		
121	『高麗(こま)大和(やまと)皇白浪(くもいのしらなみ)』考：四世沢村宗十郎の「和実」の一端	中村 恵		
122	少年期在京時代の賀茂季鷹：初期詠草とその周辺	盛田 帝子		
123	寛政期の豊後日田漢詩壇：咸宜園前史	高橋 昌彦		
124	翻刻『諸国/奇談 東遊奇談』	板坂 耀子		
125	名家書簡披展(連載 その八)	雅俗の会		
126	先哲叢談聚議：林鷺峰(連載 その八)	雅俗の会		

No.	論文タイトル	著者	巻号	発行年
127	『明暦江戸大火之記』と『むさしあぶみ』：写本から板本へ	市古 夏生	9	2002(H14)年
128	書いたこと書かなかったこと：室鳩巢の写本と刊本	白石 良夫		
129	『文反古』の成立：稿本から刊本へ	飯倉 洋一		
130	近世初期の歌書の出版について：「三十六人集注釈」の和歌本文を手がかりに	西田 正宏		
131	西鶴本版写小考	塩村 耕		
132	実学者上田作之丞の旅	西田 耕三		
133	光格天皇と宮廷歌会：寛政期を例に	盛田 帝子		
134	雨森芳洲の語学書	若木 太一		
135	筒井康隆「夢の検閲官」と山東京伝『廬生夢魂其前日』	園田 豊		
136	[翻刻] 三宅亡羊の『履歴』	上野 洋三		
137	水戸祇園寺蔵『野節文章』大概：二	大庭 卓也		
138	伊藤栄治：ある歌学者の生涯	川平 敏文		
139	『温泉考』：翻字と解題	高橋 昌彦		
140	雅語俗録：捌	中野 三敏		
141	名家書簡披展(連載 その九)	雅俗の会		
142	先哲叢談聚議：佐藤直方(連載 その九)	雅俗の会		
143	貞室の貞徳追慕：「貞徳居士十三回忌追福之俳諧十三百韻」を紹介して	雲英 末雄	10	2003(H15)年
144	陳希夷?睡像一件：鍋島直條没後の盛事	井上 敏幸		
145	西鶴『独吟一日千句』：追善十百韻の試み	中嶋 隆		
146	寿賀の詩文集：中川久貞と『知命開宴集』	高橋 昌彦		
147	二つの賀詩と高葛?陂	福島 理子		
148	宗因旅の発句色紙	尾崎 千佳		
149	鶏口と熊本	西田 耕三		
150	芭蕉俳文における長嘯子受容の背景	岡本 聡		
151	俳系における芭蕉の意義	平島 順子		
152	兼好塚の文学：常楽寺所蔵・近世兼好伝資料解題	川平 敏文		
153	雅語俗録：玖	中野 三敏		
154	名家書簡披展：その10	雅俗の会		
155	先哲叢談聚議 梁田蛭巖：その十	雅俗の会		
156	江戸文・雅俗・上文：研究同人誌と私	飯倉 洋一		
157	『本朝孝子伝』と『古今犬著聞集』：孝子表彰説話をめぐって	勝又 基	11	2012(H24)年
158	若き日の小津久足	菱岡 憲司		
159	近世後期『枕草子』研究一斑	亀井 森		
160	「久留米騒動物」実録の基礎的研究：『筑後国郡乱実記』系統を中心に	菊池 庸介		
161	滝田紫城：人物と著述	高橋 昌彦		
162	山岡元隣『宝蔵』箋註(一)：序、巻一(一)~(五)	川平 敏文		
163	三村むめ日記(一)：三村竹清家の日常	高杉 志緒		
164	軍記物から江戸時代へ：「情けあるおのこ」たち	板坂 耀子		
165	草場珮川書簡抄(一)	吉良 史明, 手紙を読む会		
166	数通流茂遠志(1)：先達の通信教育	中野 三敏		
167	志筑忠雄「阿羅祭垂来歴」の訳出とその書誌	大島 明秀		
168	加藤景範『いつのよがたり』の当代性	天野 聡一		
169	ホノルル美術館所蔵リチャード・レイン旧蔵江戸板『伽婢子』に関して	花田 富二夫		
170	『本朝孝子伝』の古典章段	勝又 基		
171	『里見八犬伝』の拆字	西田 耕三		
172	竹内雲濤の詩暦	内田 賢治		
173	「闇」の絵師葛蛇玉：『雨月物語』『夢応の鯉魚』の新たな読みへ	井上 泰至		
174	翻刻『敵討会稽錦』：(1)	菊池 庸介	12	2013(H25)年
175	山岡元隣『宝蔵』箋註(二)：巻(六)~(十五)	川平 敏文		
176	三村むめ日記(2)：三村竹清家の日常	高杉 志緒		
177	ぬれぎぬ願望の世界	板坂 耀子		
178	誤認の継承：『篠枕』の作者をめぐって	井上 敏幸		
179	草場珮川書簡抄：(二)	吉良 史明		
180	数通流茂遠志(2)：先達の通信教育	中野 三敏		
181	野々口立圃『十帖源氏』の初版と覆刻	沼尻 利通		
182	都の錦と嘶本：舌耕者としての一側面	平山 聖悟		
183	勸懲の主人公	西田 耕三		
184	鷺見文庫書誌覚書(上)：廉斎書留より(二)	白石 良夫		
185	翻刻『敵討会稽錦』(二)：巻二・巻三	菊池 庸介		
186	山岡元隣『宝蔵』箋註(三)：巻二(一)~(九)	川平 敏文		
187	三村むめ日記(3)：三村竹清家の日常	高杉 志緒		
188	『江戸の紀行文』を訂正する	板坂 耀子		
189	私の研究履歴 竹の子の皮をはぐやうに：若い日に受けた導きの数々	田中 道雄	13	2014(H26)年
190	竹下健二郎氏旧蔵書簡抄	村上 義明, 手紙を読む会		
191	数通流茂遠志(三)：先達の通信教育	中野 三敏		

No.	論文タイトル	著者	巻号	発行年
192	対馬藩における朝鮮本の輸入と御文庫との関係について	阿比留 章子	14	2015(H27)年
193	『大塔宮熊重篠繫』のこと	木村 八重子		
194	馬琴と逍遙：「肚裏」をめぐって	西田 耕三		
195	改名披露絵入俳諧摺物懐紙帖：翻字と解題	井上 敏幸		
196	翻刻・小津久足「桂窓一家言」：(上)	菱岡 憲司		
197	翻刻『敵討会稽錦』(三)：巻四・巻五	菊池 庸介		
198	鷺見文庫書誌覚書(中)：廉斎書留より(3)	白石 良夫		
199	山岡元隣『宝蔵』箋註(四)：巻二(十)~(十五)	川平 敏文		
200	メディア転換期の古典籍	入口 敦志		
201	西山宗因との出会い	島津 忠夫		
202	青柳種信関連書簡集(一)	村上 義明, 手紙を読む会		
203	数通流茂遠志(四)：先達の通信教育	中野 三敏	15	2016(H28)年
204	武富廉斎と和学：『月下記』を中心に	中山 成一		
205	近世期日本における袁中郎の受容とテキストの問題：山本北山一派の動向を中心に	合山 林太郎		
206	梅樹軒逸人の俳書出版	服部 直子		
207	功過格と律僧	西田 耕三		
208	翻刻・小津久足「桂窓一家言」：(下)	菱岡 憲司		
209	山岡元隣『宝蔵』箋註(五)：巻三(一)~(八)	川平 敏文		
210	鷺見文庫書誌覚書(下)：廉斎書留より(4)	白石 良夫		
211	翻刻・山本清溪「熱海紀行」	板坂 耀子		
212	つらゆきの野望、と、その挫折	いりぐち あつし		
213	私の鹿児島大学教育学部	濱田 啓介		
214	青柳種信関連書簡集：二	村上 義明, 手紙を読む会	16	2017(H29)年
215	数通流茂遠志(五)：先達の通信教育	中野 三敏		
216	全国図書祭記念大展示と九州大学	山根 泰志		
217	榎田北岸の「瓶話」：袁宏道受容における挿花と禅	山本 嘉孝		
218	富本梅坡と和歌伝授	中山 成一		
219	「御民」宣長：林崎文庫碑文一件再考	三ツ松 誠		
220	上月行敬筆『琉球人行粧之図』『琉球人往来筋脈之図』について：鹿児島大学附属図書館本と鹿児島県立図書館本のあいだ	丹羽 謙治		
221	安東省菴と妙幢浄慧	西田 耕三		
222	平野五岳の磐井・石人観	秋月 立雄		
223	山岡元隣『宝蔵』箋註(六)：巻三(九)~(十五)	川平 敏文		
224	『繪艸紙年代記』と『草双紙年代記』	園田 豊		
225	「妙海道の記事」のこと	板坂 耀子		
226	和本リテラシー回復のための実践報告：ジュニア「くずし字」教室	村上 義明	17	2018(H30)年
227	文化勲章を受章して	中野 三敏		
228	わからなくても、おもしろい	入口 敦志		
229	四十余年の辻棲合わせ	揖斐 高		
230	青柳種信関連書簡集：三	村上 義明, 手紙を読む会		
231	志筑忠雄「万国管？」の文献学的研究	大島 明秀		
232	おくの風流：芭蕉発句叢考	深沢 眞二		
233	後藤梨春『都老子』論：本草学と「老子」との連繫	吉田 宰		
234	「所化」と「理外之理」：『日東本草図纂』巻之十二をめぐって	木場 貴俊		
235	黄表紙作者伊庭可笑についての基礎研究	園田 豊		
236	三浦梅園の思考のはじまり	西田 耕三		
237	吉文字屋本浮世草子と白話小説	丸井 貴史		
238	江戸紀行と木曾路	板坂 耀子		
239	山岡元隣『宝蔵』箋註(七)：巻四(一)~(八)	川平 敏文	18	2019(R1)年
240	表紙裏の散歩	今西 祐一郎		
241	シーラカンスの年齢	白石 良夫		
242	青柳種信関連書簡集：四	吉田 宰, 手紙を読む会		
243	雅俗草露	川平 敏文, 高橋 昌彦, 亀井 森, 菱岡 憲司, 勝又 基, 菊池 庸介, 盛田 帝子, 吉良 史明, 天野 聡一, 三ツ松 誠		
244	蘭文和訳論の誕生：志筑忠雄「蘭学生前父」と徂徠・宣長学	大島 明秀		
245	伊勢の文化的ネットワークと『春雨物語』の流通：桜山文庫本の旧蔵者正住弘美をめぐって	青山 英正		
246	移動する快感：三浦梅園『玄語』の文章	西田 耕三		
247	「淡窓」号の諸問題：桃秋の俳文「淡窓の記」より	井上 敏幸		
248	『笈の小文』旅中書簡小考	河村 瑛子		
249	殿村篠斎作の戯文『阿嬌物語』	服部 仁		
250	伊庭可笑作『珍説雷姻禮(ちんせつかみなるのこんれい)』翻刻と注釈：(附)前稿「黄表紙作者伊庭可笑についての基礎研究」追記	園田 豊		

No.	論文タイトル	著者	巻号	発行年
251	山岡元隣『宝蔵』箋註(八)：巻四(九)~(十五)	川平 敏文	18	2019(R1)年
252	資料の提供か、成果の発信か	白石 良夫		
253	カルチャーセンターの周辺	板坂 耀子		
254	秋十年却って馬関指す故郷	渡辺 憲司		
255	青柳種信関連書簡集(五)	吉田 宰, 手紙を読む会		
256	この三冊	佐藤 至子		
257	正保版『二十一代集』の変遷：様式にみる書物の身分：(付)八尾助左衛門・勘兵衛・甚四郎出版略年表	加藤 弓枝	19	2020(R2)年
258	天保改革時の出版状況瞥見：『孝子顕彰』の読売と『御触書集覧 修身孝義鑑』の相関関係、及び『日本廿四季孝子伝』等の出板を手がかりに	服部 仁		
259	倫理の展開：仁斎四端説の視点からのスケッチ	西田 耕三		
260	大潮元皓の生涯	若木 太一		
261	『繁野話』第三篇「紀の関守が靈弓一旦白鳥に化す話」新論	劉 菲菲		
262	伊庭可笑作『〔金時地獄破(きんときちごくやぶり)〕(仮題)翻刻・注釈・解題	園田 豊		
263	山岡元隣『宝蔵』箋註(九)：巻五(一)~(六)	川平 敏文		
264	『林外日記』嘉永二年六月条：翻刻と注釈	秋月 立雄		
265	ポストン通信	勝又 基		
266	非の打ち所のない先行研究はわたしを仕合せにするか	白石 良夫		
267	先師のおもかげ	大谷 雅夫		
268	青柳種信関連書簡集(六)	吉田 宰, 手紙を読む会		
269	この三冊	池澤 一郎		

(令和4年8月作成)